

神戸学院大学 中期行動計画 実行計画(第4層) 2017年度達成度評価表 分野: 社会貢献

		評価	理由
中期計画	1 地域連携ネットワークの確立と強化		
実行計画	(1) 「社会との連携・協力に関する方針」を策定する。	B	「大学憲章」において「神戸学院大学の目指す姿」として「地域の住民・産業界と共に進化する大学」を掲げており、これを「社会との連携・協力に関する方針」とし、様々な取り組みを行い、一定の成果が上がっていることは評価できる。しかしながら、学部によりばらつきがあることから、全学的に「地域の住民・産業界と共に進化する大学」を推し進める必要がある。
	(2) 地域と本学の安全を保持するために地域との連絡協議を活発化する。	B	毎年、前年度の課題・問題点を踏まえて改善策を講じることで、一定の成果が上がっている。総合防災訓練については、本学の教職員だけでなく他大学職員と学生の参加もあり、評価できる。
	(3) 産学官連携、大学間連携、高大連携など、さまざまな連携事業を発展・拡大させる。	B	産学官連携、大学間連携については、さまざまな取り組みを継続的に実施し、特に産学官連携については、多くの成果が上がっており評価できる。しかしながら、高大連携については、コアとなる部署ではさまざまな取り組みが行われているものの、他の部署との連携が不十分であり、進捗にばらつきがある。
	(4) 地域住民の参加による大学と地域の交流の充実を図る。	A	継続的な取り組みにより、大学と地域の交流は年々充実しており、一定以上の成果が上がっている。特に神戸学院大学ジュニア・シニアクラブについては、入会者の増加だけでなく、クラブ経験者が本学に入学する、プロ選手として活躍するなどのより大きな成果を上げており、評価できる。
	(5) 地域の教育機関等への支援体制を確立する。	—	今年度の計画は無い。
	(6) 大学施設の地域開放を進める。	—	今年度の計画は無い。
中期計画	2 教育研究成果の社会への還元		
実行計画	(1) 社会が求める生涯学習のあり方について検討する。	B	2015年度に一般向けの有料講座を新規に開いたことをきっかけに、検討段階から実行段階に移っており評価できる。今後も生涯学習の機会を提供するとともに、5年間で生じた課題・問題点について改善し、より充実したものになることを期待する。
	(2) 土曜公開講座・グリーンフェスティバルのあり方について検討する。	B	従来のあり方を見直し、その一つとして告知方法を現代社会に見合った方法(SNS)を取ったことで、参加者増加につながったことは評価できる。今後も、社会のニーズに沿ったイベントを開催することを期待する。
	(3) 学術講演会等の充実を図る。	—	今年度の計画は無い。
	(4) 神戸学院ブランド商品・食品の開発、販売について検討する。	—	今年度の計画は無い。
中期計画	3 ボランティア活動の推進と支援体制の充実		
実行計画	(1) ボランティア活動参加者の増加策を強化する。	B	ボランティアの充実やその参加のための呼びかけ、ボランティアを通じての地域との意見交換、リーダー向けの研修については、学生の意欲や意識の向上につながっており、評価できる。一方で、ボランティア活動実績に対しての奨励金制度については、その妥当性も含め、検討段階に終わっており、新設には至らなかった。
	(2) ボランティア活動への支援策を強化する。	B	2015年度の学部移転に伴い、両キャンパスでの体制を整備するとともに、キャンパスによる差を解消するための工夫が講じられている。課題は残るものの、学生が自発的に活動している等、一定の成果が上がっている。

評価 S: 目標よりはるかに上回る、A: 目標をやや上回る、B: おおむね目標どおり、C: 目標をやや下回る、D: 目標をかなり下回る